数式の入力とフォントについて

数式を入力する方法は、数式エディタ(Microsoft 数式3.0、MathType)による方法と数式の挿入ボタン（数式ボタン、πボタン）を用いる方法の二つがある。

1. 数式エディタ(Microsoft 数式3.0、MathType)について

・ フォントは”Times New Roman”、フォントサイズのデフォルトは12ptである。

・ 文章が10.5ptで作成されている中で数式で用いる場合は、「斜体の12pt」とするとバランスが良い。

＜一例＞　正規分布の確率密度関数*f* (*x*) は次式で定義されている。



2. 数式の挿入ボタン（数式ボタン、πボタン）について

・ 数式を挿入する場合は、「挿入タブ」の「π数式」ボタンをクリックする。

・ フォントは ”Camblia Math”、サイズは10.5ptの斜体である。

・ 半角で数式を入力するが、変数等が斜体にならない場合は、入力する前に「ctrl + i」を入力する。

・ 行の先頭で数式を挿入するとセンタリングされるがこれを「独立数式」という。

・ これに対し、次の のように、文中で入力すると、文字扱いになり、これを「文中数式」という。

・ 「独立数式」を「文中数式」に変更するには、該当す数式をクリックして「数式オプション」を表示させ、「文中数式」に変更する。逆も同様に行える。

・ クイックアクセスツールバーに登録しておくと、ワンクリックで起動できる。ショートカット入力方法は、「Alt + =」である。

＜一例＞　正規分布の確率密度関数は次式で定義されている。

・ 分数を伴うような式が複雑な場合は、独立数式と文中数式では、フォントサイズが異なる。例えば、上のは独立数式であるが、文中数式に変更すると次のようになる。

・ 独立数式の配置はデフォルトではセンタリングされるが、これを右寄せ、中央揃えなどに変更するときは、数式をクリックして、「オプション」-「配置」をクリックして、「左揃え、中央揃え、右揃え」から選択してクリックする。

・ 独立数式の位置を移動するには、インデントマーカーの「ぶら下げインデント」△を使用する。一般には「１行目のインデント」▽を用いるが、このマーカーは対応していないので注意すること。

・ 文章中に変数や関数などを入力するときは、Camblia Mathの斜体では、次のようになり、とても使えないが、Calisto MTの斜体にするとかなり近いフォントとなる。

数式ボタン：

Times New Romanの斜体12pt：*x*, *y*, *z*, *f* (*x*),cos *x*

Camblia Mathの斜体10.5pt：*x*, *y*, *z*, *f* (*x*)*,* cos *x*

Calisto MTの斜体10.5pt：*x*, *y*, *z*, *f* (*x*)*,* cos *x*

Calisto MTの斜体12pt：*x*, *y*, *z*, *f* (*x*)*,* cos *x*